

発行: 海外養殖魚研究会

連絡先 〒171 東京都豊島区南池袋
3-15-13 前田ビル205号
(株)国際水産技術開発内
TEL 03-982-7139

No.16. May 1981

1981年2月20日に行われた第16回研究会の要約をお送りします。

[テーマ1.] ウシエビの養成試験 末光正典氏

末光氏は1979年11月に、JICAから長期派遣専門家としてフィリピンの東南アジア漁業開発センター(SEAFDEC)へ赴き、ウシエビの養成試験を行なっている。この度、一時帰国されたので試験の概要の報告をお願いした。試験池は図1のとおり、約10m×20mのが8面あるが、実際に使用できるのはA～D池で、水もれ等でD池も使いにくい。

(中1回目試験)

1回目は1980年6月4日にA～C池に稚エビ(約280/個体)を放流し、92日間の養成試験を行なった。放流密度は5～15尾/m²の3条件まで設定し、餌は現地産の配合飼料(約4円/kg・1円≒12円)を用いた。採食量(実際は残餌料)と稚エビの成長状況を観察できるように、つるした箱の中に入れて供給した。

C池は厄があいて逃げたり、溢れ等が考えられ、最終的に300尾しか残ってなかった。この資料価値が低いから、A、B池を比べると密度が低いと成長が早く生産率もよりことを示唆した。なお、池には最終的に害魚としてスズキが1～2尾/池、テラピアが10～20尾/池の割合で侵入していた。

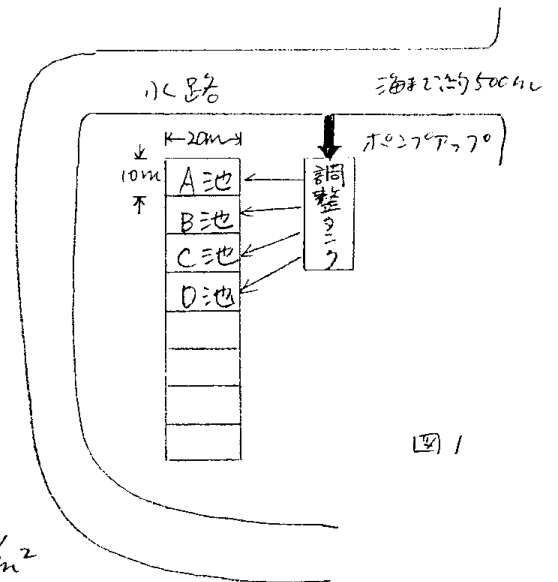


図1

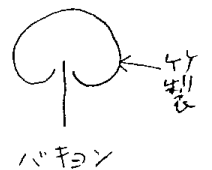
(オ 2回試験)

2回目は密度を2.5尾/㎡と低くし、2池に約0.3♀/個体の稚エビを、残り2池に0.5♀/個体の稚エビを放流し、4通りの条件で(どのような条件か聞きもらした)配合飼料による84日間の養成試験と行なった。なお、2回目は1回目と異なり各地に水車を設置し、また水交換を少なくし水の色が緑茶色になる程度に珪藻を発生させた。なお、害魚の侵入を防ぐため入水部の網を約0.5mmと小さくした結果、スズキ、テラピアの混入はほとんど防げた。

84日後には各池とも15~18♀/個体(平均17♀/個体)に成長し、生産率も93~96%とすくぬめり高かった。

(採捕試験)

養成試験の最中に、今後の収穫方法を検討するために採捕試験と行なった。採捕器具として小型定置網のようなマス網、バキヨン及び電気いし網を用いた。結果の詳細の記述はここでは省く。



その他にウシエビに関して報告及び、後の論議で下記の事項が述べられた。

- ウシエビはクルマエビのように完全な夜行性ではなく、また、水中にあまり潜らないが池内でもコンクリート壁近くや、物影に多く分布し、日影を好むようである。
- ウシエビはマングローブ域に多く生息し、マングローブの葉は泥地でのニエルターとして、また、デトライト化した餌として有効ではあるのか。
- ウシエビはクルマエビほどでは無いにしても動物タンパク質を要求する。その代用としてタンパク質を多く含むマメ科の *Ipilipi* の葉を池内に入れると効果的では無いだろうか。

- 実験池はコンクリート壁をもつ泥池だが、民間で実際に行なわれている養殖池は周囲が土堤で次第に深くなる構造であり。この相異を念頭において実験を進めないと、実験結果が実際の現地の養殖とつながっていかぬこともありうる。
- 養成試験は配合飼料を用いた給餌法で行なっている。これから飼代からみて生産原価をある程度概算できる。この結果、現在フィリピンで行なわれている無給餌のラシエビ混養にかかる費用と比較して、給餌が市場競争において有利か不利かのチェックが可能ではないだろうか。

| | 放養密度 | 92日後の 平均体重 | 生産率 |
|----|--------------------|---------------|-----|
| A池 | 15尾/m ² | 7g/個体 | 82% |
| B池 | 10尾/m ² | 10g/個体 | 87% |
| C池 | 5尾/m ² | 9.8~16g/個体 | 73% |

[テーマ 2.] パキスタンの内水面開発プロジェクト

パキスタン政府から(株)OAFICの内水面の増養殖を中心とした開発プロジェクトへの入札に関する要請がありました。(株)OAFICでは近々プロポーザルを提出する予定であり、その前に勉強会の場を石本氏がパキスタン政府から寄せられた計画と下記のとおり説明しました。関心のある方は(株)OAFICまで問い合わせ下さい。

- プロジェクト総事業費 44億円 (内訳 パキスタン政府 20億円、アジア開発銀行借入 24億円)
- プロジェクト期間 5年 (2年 → 中見直し → 2.5年)
- 対象地域 ミード州, パンジャブ州, 辺境州
- 主な事業 インディアンカープ増養殖, アス増養殖, エビ増養殖, 餌料開発, 船外機, 魚具普及, 借し付け業務等, 荷揚場, 池沼, 冷蔵施設等の整備
- 派遣技術者数 6名